

CITATION: Brown HC, Paranjothy S, Dowswell T, Thomas J. Package of care for active management in labour for reducing caesarean section rates in low-risk women *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 9. Art. No.: CD004907. DOI: 10.1002/14651858.CD004907.pub3.  
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group.

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 27 June 2013  
Clib issue No.; N/U: 2013 Issue 9; Update

## アブストラクト

**背景:** 女性の約15%は帝王切開(CS)を受けており、その割合は多岐に渡るものの、その数は多くの国々で増加している。CS率が高くなることは健康上の利益をさらにもたらすものではなく、母体の健康に有害な影響を及ぼす可能性があり、将来の妊娠にも影響があるため、このことは重要である。分娩の積極的管理がCS率を低下させる方法として提唱されている。これは、分娩の正確な診断、ルーチンの人工破膜、進行遅延に対するオキシトシン、分娩の1対1の介助(マンツーマンの支援)を含むケアパッケージのことを指している。

**目的:** ローリスク女性における分娩の積極的管理がCS率を低下させ、女性の満足度を向上させるかどうかを決定すること。

**検索戦略:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Registerを検索した(2013年4月16日)。

**選択基準:** 既定のケアパッケージ(積極的管理)を受けるローリスク女性とルーチンケア(様々)を受ける女性とを比較しているランダム化比較試験。試験登録前に遷延分娩が診断されていた試験は除外した。

**データ収集と分析:** 少なくとも2名のレビュー著者がデータを抽出した。選択した研究をバイアスリスクについて評価した。

**主な結果:** 合計5,390名の女性が登録された7試験を組み入れた。研究の質は様々であった。CS率はルーチンケア群より積極的管理群でわずかに低かったが、統計的有意差は認められなかった(RR 0.88、95%CI 0.77~1.01)。しかし、1件の研究において、ランダム化後の脱落が多数認められた。この試験を除外すると、積極的管理群のCS率はルーチンケア群に比べ統計的に有意に低かった(RR 0.77、95%CI 0.63~0.94)。分娩所要時間が12時間未満となったのは積極的管理群の女性に多かったが、分娩の所要時間には試験内および試験間の大きなバラツキが認められた。鎮痛薬の使用、器械分娩の割合、または母体や新生児の合併症に群間差は認められなかった。母体の満足度を検討したのは1試験のみで、両群の女性のほとんど(75%を上回る)がケアに非常に満足したと報告された。

**レビューアの結論:** 積極的管理はCS率のわずかな低下と関連したが、かなり指令的であり介入的である。積極的管理パッケージの構成要素の一部は、他の構成要素より効果が高いと考えられる。分娩中の女性に対する積極的管理の許容性を決定するには、さらに研究が必要である。

## 平易な要約(Plain language summary)

## 帝王切開率を低下させることを目的とした合併症のリスクが低い女性の分娩を積極的に管理するためのケアパッケージ

多くの国々で帝王切開率が増加しています。帝王切開率が高くなるからといって必ずしも健康上の利益がさらにもたらされるわけではありませんが、母体のリスクを増大させ、その後の妊娠に影響を及ぼす可能性があります。帝王切開出産数を減少させるために、分娩の積極的管理が提唱されています。積極的管理には、ルーチンの人工破膜(人工的に膜を破ること)、進行遅延を診断するための厳格なルール、子宮収縮を増加させるためのオキシトシンの静脈内投与、および1対1(マンツーマン)のケアなどがあります。積極的管理のデメリットは、侵襲性のより高いモニタリングやより多くの介入が行われることと、コントロール感と満足度が低くなる医学的処置のより強い分娩となる可能性があることです。本レビューには、5,390例が登録された7試験を組み入れました。これらの研究では、積極的管理を受けた女性は帝王切開を受ける頻度がわずかに低く、分娩所要時間が短縮する(12時間未満)頻度が高かったことが示されています。積極的管理群の女性とルーチンケア群の女性を比較しても、器械分娩の数に差は認められず、母親や新生児の合併症にも差は認められませんでした。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年1月8日

**ご注意:**この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。